

平成 23 年度 学校 経営 計画 表

1 学校の現況

学校番号	21	学校名	茨城県立緑岡高等学校				課程	全日制				学校長名	大月光司			
教頭名	額賀俊光								事務室長名	藤田正一						
教職員数	教諭	48	養護教諭	1	常勤講師等	2	非常勤講師	6	実習教諭, 実習講師, 実習助手	3	事務職員	4	技術職員等	2	計	69
生徒数	小学科	1年		2年		3年		合計		合計クラス数						
		男	女	男	女	男	女	男	女							
	普通,理数科	206	74							206	74	7				
	普通科			167	69	162	77	329	146	12						
理数科			29	11	30	8	59	19	2							

2 目指す学校像

文武不岐の伝統精神のもと、高い知性とたくましい心を持つ生徒を育成し、一人一人の希望を実現するとともに、社会に貢献する人材を輩出することにより地域社会から支持・信頼される学校を目指す。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の記録」の記入などを通して、学習時間の確保を意識させようとしているが、十分な時間が確保されているとはまだまだ言えない。 主体的な学習ができるのが理想的ではあるが、課題を中心に学習をさせないと自ら進んで学習できる生徒は限られている。 生徒の学力差も大きく、授業でどのレベルに焦点を当てるか難しいこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間の量をどう確保させるかが問題である。課題の提出に関しても、自分できちんとやることができている生徒はおそらく半数に満たない。答をただ写している生徒や提出をしない生徒も見受けられる。 平常の課外も曜日限定で行くと、最初多かった希望者が最後には激減する傾向にあり、長続きしない生徒が多い。課外の形態等も考慮が必要である。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 目標であった国公立大現役合格 100 名を達成したが、国公立大学の難関校に合格する生徒はまだ少ない。 私大の上位校も、早慶上智現役計 5 名、GMARCH 計 26 名と合格者はそれほど多くはない。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識を早くから高め、目標に向かって努力する姿勢を身に付けさせる必要がある。 旧帝大クラス、筑波大学、国公立医学部など国公立上位校、早慶上智、GMARCH、東京理科など私大上位校に対応できる学力を身に付けさせる必要がある。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> マナーアップ週間を設定し、遅刻・服装指導を実施した。各学年においても、定期的に服装指導を実施し規律遵守を図った。 通学路における自転車の安全運転指導を実施し、施錠の徹底等防犯意識の高揚を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の交通事故防止、服装指導等、継続的に教員の共通理解を持って指導を進める。 各集会において、生徒全体に対して積極的に発信し、安全・規範に対する意識の高揚を図る。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 部活動への参加率は、75%を超え、活動も活発である。 緑高祭等、学校行事において生徒主体の活動を実施した。 緑歩会においては下見確認を徹底し、安全なコースで実施した。 「生徒主体」を推進し、生徒会活動の活性化を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動と学習時間のバランスと節電を考慮し、活動の効率化を図る。 緑高祭の全学年参加に対する意識の高揚と質の向上を目指す。 生徒会本部役員の上候補者数の増加と、継続的な活動を図るための引き継ぎが必要である。
事務	<ul style="list-style-type: none"> 予算の効果的執行と条例規則に則った適正な事務処理に努めている。 施設、設備を適切に管理し、エコ活動も併せて推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災に伴う電力供給不足に対応するため、学校教育に支障ない範囲での節電に努める必要がある。

4 中期的目標

生徒一人一人の自己実現を支援する教育環境を構築する

- (1) 自己の適性に基づく進路選択をサポートするハイ・レベル授業を展開する。
- (2) 医学・難関理工系進学コースを核に、One-Rank up した進路指導を実現する。
- (3) 生徒の主体的活動を奨励し「生きる力」を育む。
- (4) 倫理観を培い、規律を重んずる責任ある生活態度を育む。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
・ 自学自習の習慣の確立	①授業の質的向上に努め、自ら課題を見つけ解決する能力を身に付けた生徒を育成する。
・ 進路希望の実現	②現役での国公立大学合格者 100 名，難関私立大学合格者 30 名，現役進学率 70 %を達成すると共に，更なる質的向上を目指す。
・ 規範意識の高揚	③「礼儀，校則，公共心」等を尊重する「心と態度」を身に付けた生徒を育成する。
・ 特別活動の活性化	④生徒会活動，学校行事，部活動，LHR等への積極的参加を促し，自己管理能力を身に付けた生徒を育成する。 ⑤「生徒が企画する 50 周年事業」を支援する。
・ ISH の充実	⑥ ISH を通して科学的探究心，活用力を身に付けた生徒を育成し，それらの成果を生かし，SSH への更なる発展を目指す。